公益財団法人 国際通貨研究所
Institute for International Monetary Affairs
メールマガジン

2020 年 2 月 3 日

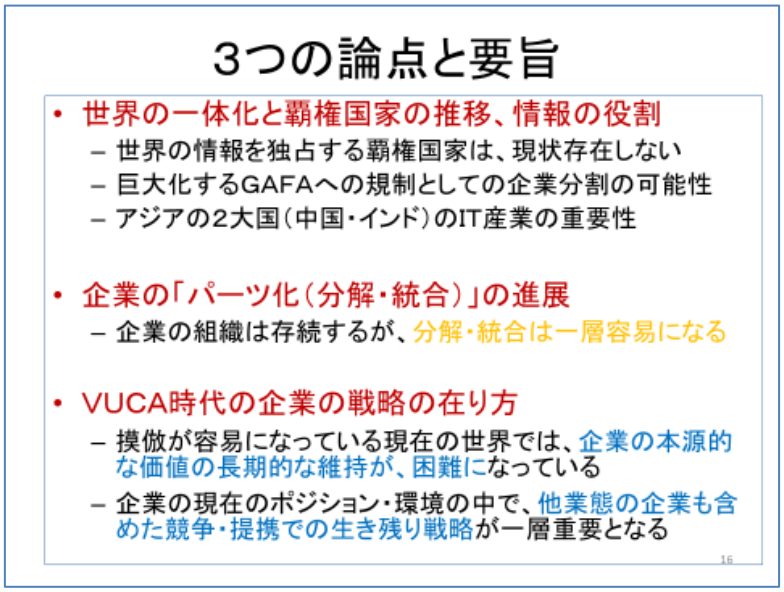
ITと国家・企業・ビジネスについて考える

拓殖大学 教授
IIMA 客員研究員 松井謙一郎

筆者は 7 年前に IIMA から大学教員に転じて、大学では経済発展論・マクロ経済学・ラテンアメリカ経済論の講義やゼミを担当してきた。この間にスマホを始めとする IT が我々の生活やビジネスを大きく変えた事は改めて言うまでもないが、昨年は IT をゼミの中核的なテーマと位置付けた。昨年末にゼミの総括行事として「IT と国家・企業・ビジネスについて考える」研究発表会を実施したので、内容を簡単にご紹介致したい。

ゼミでは内外の財閥や企業グループの歴史・戦略対比やビジネスモデルの分類・変遷を取り扱ってきた。筆者は IT の専門家ではないが、企業戦略を中心に研究発表会の論点を設定した。第 1 の論点は、IT と国家の関係（協調と対立の側面）、第 2 の論点は企業のパーツ化、第 3 の論点は VUCA 時代の企業戦略で、概略は下記の通りである。

＜担当教員としての 3 つの論点の設定＞



第 1 の論点は、IT と国家の関係は協調と対立の側面がある事である。例えば、歴史分野で世界の覇権国家として位置付けられてきたオランダ・イギリス・アメリカにとっ

て、活版印刷・電信網・電話網が当時のそれぞれの国の世界覇権の確立に大きな役割を果たしたが、現在の世界では情報を独占する覇権国家は存在しないとされる（玉木俊明『〈情報〉帝国の興亡』）。GAFA の解体も議論される現在の米国、IT が国家戦略の大きな核となっている現在の中国など、IT と国家の関係は状況で異なり一様ではない。

第 2 の論点については、日本でも約 20 年前の持持会社の解禁以降、水平統合を中心とする大企業の統合、バンドリング（垂直統合）やアンバンドリング（水平分業）など様々な形態の企業再編が顕著に行われるようになった。筆者は（あたかもレゴのブロックのように）企業が分解・統合される状況を『企業のパーツ化』と呼んでいる。

第 3 の論点は、VUCA 時代の企業戦略である。VUCA とは「変動性」（Volatility）、「不確実性」（Uncertainty）、「複雑性」（Complexity）、「曖昧性」（Ambiguity）の 4 つの単語の頭文字をとったものであり、不確実性を象徴する用語として近年よく使用されるようになっている。このような状況では自社のポジションを柔軟に変更しながら変化に対応していくことが、企業戦略においても大変重要になってきている。

筆者のゼミは現在 5 学年（学部が 3 学年、大学院が 2 学年）にまたがっており、大学院生は全員が留学生である。ゼミ生の中から複数学年の学生が発表（全て個人単独で 9 名）、教員も含めると合計 10 名、2 時間半に及ぶ「駅伝リレー」となった。紙面の関係で個々の内容は紹介できないが、以下の表の通り、「IT 関連の時事的テーマにおける光と影の側面を対比させながら、聞き手に本質を考えさせる」発表が中心となっている。

＜研究会における発表のテーマ＞

学年	テーマ
大学院２年	日本におけるシェアリングエコノミー発展の可能性
大学院１年	台湾の経済発展における IT 産業の役割と課題
	ネットとリアル　　～O2O ビジネスモデルの観点から～
	IT と中国の今後の企業の在り方（国営・民間企業の対比）
学部３年	GAFA の戦略・ビジネスモデルの対比と今後
	ユニコーン企業の光と影
	ブロックチェーンの事例・可能性と課題
学部２年	中国経済の発展のダイナミズムと IT の役割
	インドの経済発展の歴史と IT の役割

研究発表会には筆者の所属する政経学部からも様々な分野の教員やゼミ生に参加頂いた。学際的・複合的な学びが政経学部の特徴となっており、筆者も文理融合の学びなど様々な試行錯誤を続けながら教育に取り組んできた。特に、ゼミについては『ゼミのプラットフォーム化』を目指してきたが、学年を超えたゼミ生の相互交流などの相乗効果は当初の予想をはるかに上回るものであった。

「双方向の講義」「課題解決型の学習」に代表されるような大学教育におけるアクティブラーニングの重要性が言われて久しいが、これらの多くは教員の日頃からの地道な取り組みに依存する部分が大きい。筆者にとっては今後も教育面での試行錯誤は避けて通れないものであるが、このような「（IT 的な発想では捉えることのできない）地道で人間味にあふれる試行錯誤の取り組み」が大学教員の醍醐味であると感じている。

（IIMA メールマガジンへの寄稿）

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2020 Institute for International Monetary Affairs（公益財団法人 国際通貨研究所）
All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.
Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan
Telephone: 81-3-3510-0882, Facsimile: 81-3-3273-8051
〒103-0027　東京都中央区日本橋本 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階
電話：03-3510-0882（代）ファックス：03-3273-8051
e-mail: admin@iima.or.jp
URL: http://www.iima.or.jp